

令和元年 7 月 15 日

「第 29 回国際地図学会議」が、70 以上の国と地域から 900 名を超える参加者を迎え、「地図作りを誰にもどんなことにも」のテーマのもと開催され、皆様とともに開会式に出席できますことを大変嬉しく思います。

地図は、宇宙空間から地球上の陸地や海、日常の生活空間に至るまで、様々なスケールの空間を一覧できるよう視覚化するために、太古の昔から人類が蓄積してきた知識の表現手段であると承知しております。地図学の領域は、地図の作り方だけではなく、その利活用のための理論や技術、社会や文化との関わりにまで広がっていると聞き及んでおります。複雑化し変化の激しい現代社会において、知識は断片化しがちですが、地図はそのような知識を一覧できるように表現するので網羅的・俯瞰的に捉えることが可能となり、私は、この地図特有の特性の意義はきわめて重要なものと思います。

国際地図学会議は、1980 年に東京で開催されて以来、39 年ぶりに日本で開催されます。この間、地図学はデジタル化を契機として大きな発展を遂げました。デジタル化とインターネットの普及に伴って、誰もがいつでもどこでも地図にアクセスし、伝えたいことを自由に地図で表現できる環境が整いつつあります。それを支える測量技術も、衛星測位システムの進歩によって、誰もが自分の居場所を正確に知ることができるようになりました。また、今日の世界的な課題として、国際連合の「持続可能な開発目標 (SDGs)」が設定されておりますが、各種指標の地図化によって目標ごとの達成度を地域間で比較し、地図が世界の課題解決に寄与することも大きな使命となっています。

私自身についても、地図は地理を把握する上で大切な情報の源になっております。私の関心のあるテーマの一つが「家畜化」です。中でも家畜と人との多様な関係を把握することを通して野生原種から家畜化、そしてそれ以降におこった品種化の要因を探究することを大きな課題としております。

主たる対象は鶏の祖先である野鶏の家畜化とそこから派生した子孫の品種化ですが、このような研究を行うためには、地理的環境を理解することが大変重要なこととなります。単に平面的な地図を見る場合とコンターの入った地図では、仮説の立て方も違ってまいります。どのような地理的そして文化的隔離があるかを把握することによって、遺伝的また形態的変異を含めた各地域に存在する鶏の品種分化を推測できるからです。

また、このことと関連し、タイと日本の国際共同研究を行った際には、無線 LAN による測位システムを鶏の行動追跡に応用する研究に関わったことがあります。現在では、そのような測位技術の進歩がめざましく、人工衛星やセンサーなど最新技術を用いた新しい地図の作成・利用の一端も今回の会議で報告・展示されると伺っており、大変興味を持っております。

本国際会議では、「国際地図展」が併せて開催されると伺っています。世界各国で選抜されたすぐれた地図約 500 点が展示され、それらを一挙に鑑賞することができます。同時に、児童・生徒の応募作品の中から入選した作品を展示する「バーバラ・ペチェニク子供地図展」も開催されます。これらは一般公開され、地図として表現することの意義が社会に浸透するとともに、我が国の将来の社会を担う子供たちに、地図の大切さ、面白さを伝えるよい機会になることでしょう。

おわりに、地図学が今後いっそう発展し、世界の平和と安全に寄与するとともに、この会議が皆様にとって実り多くかつ意義深いものとなることを願い、私の挨拶と致します。